

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成16年8月26日(2004.8.26)

【公開番号】特開2002-239166(P2002-239166A)

【公開日】平成14年8月27日(2002.8.27)

【出願番号】特願2001-45912(P2001-45912)

【国際特許分類第7版】

A 6 3 F 7/02

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 4 C

A 6 3 F 7/02 3 2 4 Z

【手続補正書】

【提出日】平成15年8月7日(2003.8.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

また、前記球貯留部に球量を検出可能な球量検出手段を設け、前記記憶手段の記憶された遊技用乱数を事前に判定する記憶乱数判定手段を備え、前記賞球排出保留判定手段は、前記記憶乱数判定手段が特別遊技状態を発生させることを事前に判定した場合で、且つ、前記球量検出手段が所定の球量以下であることを検出した場合に、賞球排出を保留すると判定し、前記保留解除判定手段は、特別遊技状態が発生した場合、或いは球量検出手段により所定の球量以上であることが判定された場合に、賞球排出の保留を解除すると判定するようにしても良い。これによれば、予め記憶内に大当たりが含まれることを判定する手段を備えているので、大当たり記憶が有るときであって、球が無い状態のときに賞球の保留を行うことができ、遊技者に遊技の中断をより意識させなくすることができ、またよりの確な時期に賞球を保留解除とすることが可能となる。ここで、遊技用乱数を事前に判定するとは、遊技用乱数を取得した時点で判定するようにしても良いし、この遊技用乱数により変動表示遊技が行われる時点であっても良いし、また、変動表示遊技が行われている最中であっても良い。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

また、前記賞球排出保留手段により賞球排出の保留状態を報知する報知手段を備えるようにしても良い。これによれば、通常の排出動作とは異なる賞球の保留状態を報知することができ、遊技者が賞球の出てこない状態を球詰まり等と勘違いする事態を回避することができ、賞球や貸球の排出に関して遊技店との間でトラブルが発生することを未然に防止することができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0050

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

遊技制御装置 2 1 0 は、遊技盤に設けられている各種センサの信号を監視しており、入賞が発生したことを検知すると賞球排出コマンドを排出制御装置 2 2 0 へ送信する。なお、特に限定されるものでないが、賞球排出コマンドは排出する賞球の数毎にそれぞれコマンドが割り当てられている。遊技制御装置 2 1 0 から排出制御装置 2 2 0 へ送信されるコマンドはこれらの他に例えばシュート球切れコマンド、シュート球切れ解除コマンド、オーバーフロー発生コマンド、オーバーフロー解除コマンド等がある。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 6 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 6 1 】

ステップ S 2 4 では、賞球排出保留条件成立フラグがセットされているか否かが判定され、賞球排出保留条件成立フラグがセットされている場合にはステップ S 2 5 へ移行し、賞球排出保留条件成立フラグがセットされていない場合にはステップ S 2 6 へ移行する。ここで、賞球排出保留条件成立フラグのセットは前述の賞球排出保留条件判定処理にて所定の遊技条件の監視結果に基づいて実施されており、賞球排出保留条件成立フラグのクリアは前述の賞球排出保留条件判定処理にて特定の遊技条件の監視結果に基づいて実施される。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 6 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 6 5 】

ステップ S 2 8 では、賞球排出保留条件成立フラグがセットされているか否かが判定され、賞球排出保留条件成立フラグがセットされている場合にはステップ S 2 9 へ移行し、賞球排出保留条件成立フラグがセットされていない場合にはこの賞球コマンド設定処理を終了する。ここで、賞球排出保留条件成立フラグのセットは前述の賞球排出保留条件判定処理にて所定の遊技条件の監視結果に基づいて実施されており、賞球排出保留条件成立フラグのクリアは前述の賞球排出保留条件判定処理にて特定の遊技条件の監視結果に基づいて実施される。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 0

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 7 0 】

なお、遊技制御装置 2 1 0 で実行される前述の賞球排出保留条件判定処理との関連で、遊技制御装置 2 1 0 から排出制御装置 2 2 0 への賞球払出しコマンドの送信が保留された場合には、賞球払出しコマンドを受信できないので当然のことながら賞球の払出しは行われず、賞球排出が保留された状態となる。なお、このコマンド判定処理ルーチンは、排出制御装置 2 2 0 のメイン処理プログラム（後述する排出制御処理）の実行中に例えば 1 m 秒ごとのタイマ割込みによって実行されるようになっている。

【 手 続 補 正 7 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 3

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 7 3 】

また、ステップ S 1 2 0 において累積賞球記憶が「 1 6 個 」より少ないと判定されたときは、ステップ S 1 3 0 に進んで記憶されている分の賞球数を排出数と設定して排出部 1 0 6 のストップソレノイド 5 4 を解除し排出モータ 5 3 を駆動して賞球の排出を実行した後、ステップ S 1 4 0 に移行して累積賞球記憶を 0 にしてから、ステップ S 1 5 0 へ移行する。ステップ S 1 5 0 では、賞球検出センサ S S 6 a、S S 6 b で検出される排出された実球の確認を行い、前述した排出動作により実際に正確に賞球が排出されたかどうかを判定する。ここで、正常に排出が行われた場合には排出が完了したとして再び S 1 0 0 に戻り、正常に排出が行われなかった場合にはステップ S 1 6 0 へ移行する。このステップ S 1 6 0 では、補正排出処理として未だ排出されなかった数だけ再び排出動作を行うものである。なお、この補正排出処理で正確に賞球の排出が完了した場合には再び S 1 0 0 に戻るが、この補正排出処理でも正確に賞球の排出が行われなかった場合には何らかの故障等と判断して、排出エラー状態とし、排出エラー報知を実行し、また排出動作を不能にする（エラー状態からは排出制御装置 2 2 0 をリセット状態にすることで復帰可能。）。_

【 手 続 補 正 8 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 7 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 7 7 】

例えば上皿の球が切れたが、始動入賞記憶が残っていて大当たりが発生する可能性があるような場合等には、賞球の払い出しを一時的に保留し、始動記憶がなくなって発射遊技を再開したいとき、或いは、上皿の球が増加して発射遊技を通常のように実行できるようになったときに、あるいは大当たりが発生した場合に、賞球の排出を行なうようにできる。したがって、遊技者の余分な投資（無駄金）を防止することができ、遊技者に余計な不利益が及ばないようにすることができる。また、遊技者が遊技を中断しても良いと感じるような遊技状態にのみ賞球を保留させることで、賞球保留を行っても遊技者が嫌悪感を抱かないようにでき、興味が損なわれることを防止することができる。なお、ステップ S 2 5 で、保留状態表示器 H を点灯させて、遊技者に賞球排出が保留されることの報知を行う。また、ステップ S 2 9 で、保留状態表示器 H を点灯状態から消灯状態にして、遊技者に賞球排出が保留解除されることの報知を行う。これにより、遊技者が賞球の出でこない状態を球詰まり等と勘違いする事態を回避することができ、賞球や貸球の排出に関して遊技店との間でトラブルが発生することを未然に防止することができる。